

びわす通信



アクア琵琶から琵琶湖・淀川流域水だより

2000 Spring



「びわす通信」は、琵琶湖・淀川の上流から下流の水のかけはし、情報誌です。

【よみがえる瀬田しじみ】

滋賀県大津市の瀬田川は、古くから良質のしじみの産地として知られ、周辺では縄文時代の貝塚も発見されています。長さ6〜8メートルの竹竿の先につけた播網で、川底のしじみをすくい取るしじみ掻き

み掻きは瀬田川の風物詩として広く親しまれてきました。



セタジミ



マシジミ



昭和30年頃までは年間5〜600トンの水揚げを誇り、全国有数の漁場として賑わった瀬田川ですが、その後、河川環境の変化などによって漁獲量が急激に減少。昭和50年代には漁も行われなくなり、しじみの生息そのものが危ぶまれました。しかし、長年にわたる関係者の努力や生息に適した砂地の回復などが主な要因となつて、2〜3年前より瀬田唐橋近くでも、しじみの繁殖を示す親貝が確認されるようになりました。さらに、昨年のしじみ漁では年間10トン前後が水揚げされるなど、瀬田しじみ復活の朗報がもたらされました。今後は、漁獲量の多くを占めているマシジミとともに、琵琶湖固有種であるセタジミの定着に向けて、漁業組合や建設省滋賀県などが一体となつて、新たな取り組みをスタートしようとしています。

